

史跡陸奥国分寺跡第 35 次調査

1. 調査要項

調査地点 仙台市若林区木ノ下 3 丁目 調査期間 令和 7 年 5 月 15 日～8 月 8 日 (予定)
 調査原因 国庫補助事業による遺構確認調査 調査面積 約 300 m²

2. 調査概要

調査区は陸奥国分寺跡北東部に位置する。北東部における内部施設の有無を確認するため調査区を 4 箇所設定した (第 6 図)。(第 7 図) 1 区では、中央部で SB1 掘立柱建物跡 1 棟が検出された (写真 2)。規模は東西 1 間以上 (総長 2.2m、柱間間隔 210～220cm)、南北 4 間 (総長 12.2m、柱間間隔 300～310cm) で、南面に廂が付く可能性がある。柱痕跡の規模は 20～32cm で、柱穴掘方の規模は一辺 140～200cm の隅丸方形を呈する。柱穴は堆積土中に焼土ブロックが混入しており、柱の抜き取り穴は確認されない。第 27 次 (平成 18 年) 調査の 3 区では柱穴が検出されていないため、建物規模は両調査区間に収まると推定される。また、北側の掘方 2 基は掘方がそれぞれ別の遺構と重複して検出されており、重複した遺構より新しい。

2 区からは、土坑、ピットが検出された。3 区からは、柱穴が 6 基確認され、そのうち方形の掘り方を伴う柱穴は、隅丸方形の掘り方が 5m 間隔で並ぶことから南北梁行 2 間の東西棟の可能性が考えられる。4 区では、上層の多くが攪乱によって乱されており、ピットのみ検出された。

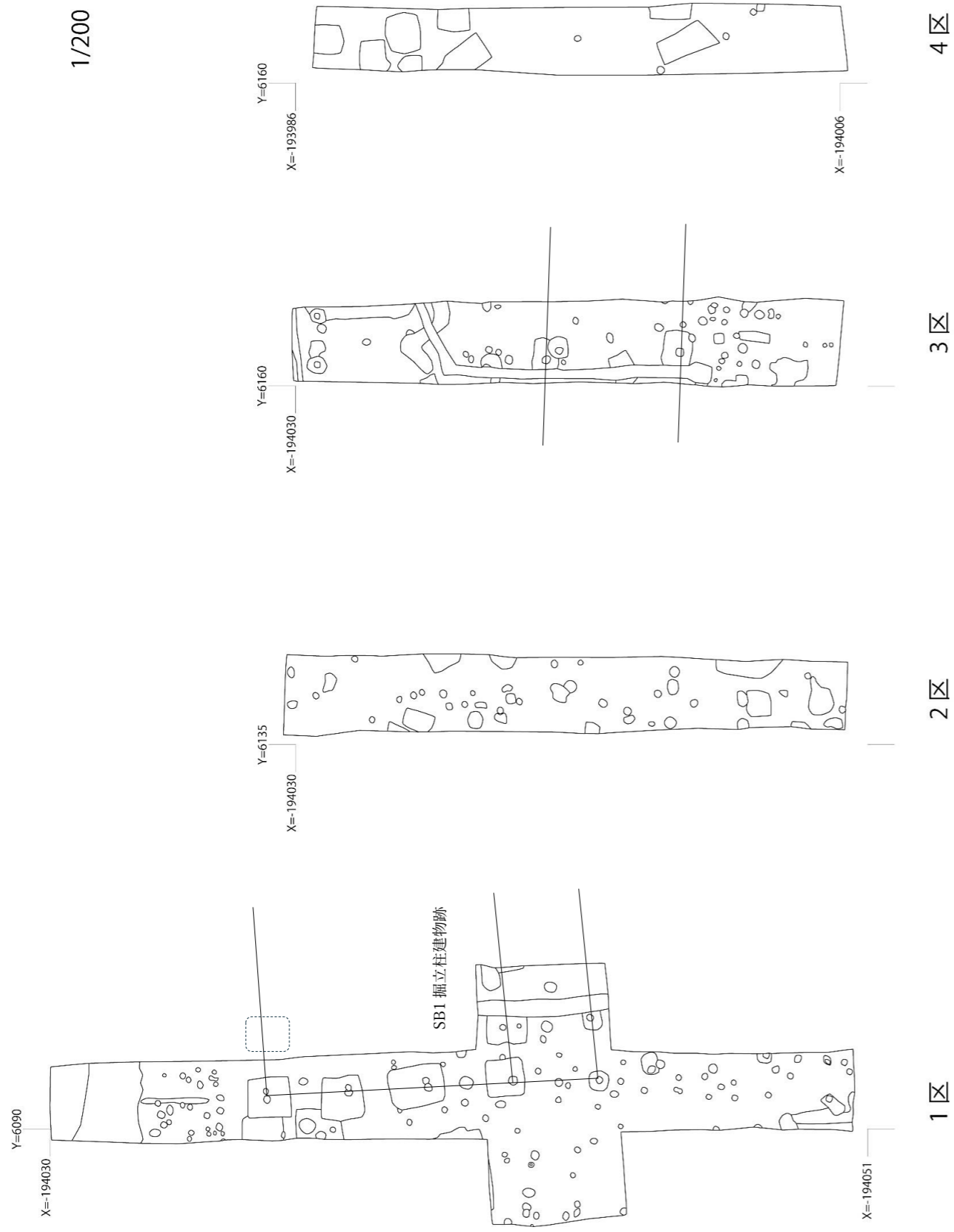


写真1 SB1 掘立柱建物跡検出状況(南東から)



第1図 令和 7 年度 陸奥国分寺跡調査区位置図

1/200



第2図 陸奥国分寺跡第35次各調査平面図